

「デジタルファシリティを取り入れた歯科技工」

(株) デンタル デジタル オペレーション 十河 厚志

歯科技工において、コンピューター支援による補綴物を設計及び加工する歯科用 CAD/CAM の導入は、補綴物製作のための歯科技工術式を大きく変革させた。さらにマテリアルの進化も伴い、アナログ技工では至難であった技術も容易に獲得できるようになった。

近年話題の口腔内光学スキャナー(IOS)の臨床応用は、チェアサイドで行われる印象採得の常識を覆す全く異なった様式を用い、その後のラボサイドでの技工手技にも大きな変化を与えた。それは印象採得から修復物製作までの一連の流れをデジタル化によって完結させるという近未来的な修復治療のありかたを示唆している。また、IOS は一般修復治療に限らずインプラント修復治療、さらには埋入診断においても同様に活用され、歯科医師と歯科技工士のコミュニケーションツールとしても良い結果をもたらしている。

現状における IOS の精度は、スキャニング時の口腔内環境の状況や撮影手技が大きく精度に影響を及ぼすと不安視する意見もあるが、これからのデジタル技術の進歩によってそのような煩雑的な課題もいずれ解消し、簡単で大変便利なツールとして今後の歯科治療を大きく変革させる事と期待している。

今回は日常の歯科臨床における自らが携わるデジタル技工術の現状や工夫、また将来的な可能性を経験も交えて述べてみたい。

## 略歴

- 1985 大阪歯科学院専門学校卒業
- 1989 渡米 (歯科技工所勤務)
- 1992 帰国
- 2001 日本歯科技工士会生涯研修認定講師
- 2006 (株)デンタル デジタル オペレーション 設立 代表取締役就任
- 2009 大阪大学招聘教員
- 2018 神奈川歯科大学附属病院 非常勤講師

## 所属学会

- 日本口腔インプラント学会 インプラント専門歯科技工士
- 日本歯科技工学会
- 日本歯科審美学会
- 日本デジタル歯科学会